

平成25年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	東北大学	機関番号	11301
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> (ふりがな) 氏名・職名 さとみ すすむ 里見 進 (東北大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はなわ きみお 氏名・職名 花輪 公雄 (東北大学・理事(教育・学生支援・教育国際交流担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ながさか てつや 氏名・職名 長坂 徹也 (東北大学大学院工学研究科金属フロンティア工学専攻・教授)		
4. 申請類型	Q <複合領域型(物質)>		
5.	プログラム名称	マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム	
	英語名称	Interdepartmental Doctoral Degree Program for Multi-dimensional Materials Science Leaders	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(工学)、博士(理学)、博士(情報科学)、博士(環境科学)、博士(文学)、博士(学術) 付記する名称: マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム		
7. 主要分科	(① 材料工学) (② 物理学) (③ ナノ・マイクロ科学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オナーワシ型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	工学研究科金属フロンティア工学専攻、知能デバイス材料学専攻、材料システム工学専攻、 応用化学専攻、機械システムデザイン工学専攻、電子工学専攻、理学研究科物理学専攻、化学専攻、 数学専攻、天文学専攻、情報科学研究科システム情報科学専攻、環境科学研究科環境科学専攻、 文学研究科文化科学専攻、金属材料研究所、多元物質科学研究所、電気通信研究所、 ニュートリノ科学研究センター、原子分子材料科学高等研究機構(WPI-AIMR)		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別	※ 該当する場合には○を記入		
	連合大学院		共同教育課程
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	独立行政法人物質・材料研究機構、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、NTT物性科学基礎研究所		

(機関名: 東北大学 申請類型: 複合領域型(物質) プログラム名称: マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 花輪 公雄	ハナワ キミオ	60	理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)	海洋物理学 理学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 長坂 徹也	ナガサキ テツヤ	55	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・教授	金属プロセス工 学・産業エコロ ジー・工学博士	プログラムコーディネーター、プログラム内 インターンシップ担当、プログラム総括
平山 祥郎	ヒラヤマ ヨシロウ	57	理学研究科・物理学専攻・教授	量子伝導物性 博士(工学)	プログラムサブコーディネーター、プログラム 内インターンシップ担当、プログラム総括補佐
貝沼 亮介	カイヌマ リョウスケ	52	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・教授	金属材料学・材料 組織学 工学博士	研究教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
松八重 一代	マツハエ カズヨ	39	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・准教授	環境・資源経済学 博士(経済学)	総務委員会委員、プログラム内インター ンシップ担当、人文・社会科学教育担当
安斎 浩一	アンザイ コウイチ	58	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・教授	鑄造工学 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
朱 鴻民	シュ コウミン	51	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・教授	材料電気化学 工学博士	国際連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
及川 勝成	オикаワ カツナリ	44	工学研究科・金属フロンティア工学専攻・教授	材料創形学 博士(工学)	総務委員会委員、プログラム内インター ンシップ・工学教育担当
杉本 諭	スギモト サトシ	54	工学研究科・知能デバイス材料学専攻・教授	磁性材料学 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
新田 淳作	ニッタ ジュンサク	56	工学研究科・知能デバイス材料学専攻・教授	量子物性材料・ス ピントロニクス 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
高村 仁	タカムラ ヒトシ	45	工学研究科・知能デバイス材料学専攻・教授	エネルギー変換デ バイス固体イオニ クス 博士(工 学)	国際連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
吉見 享祐	ヨシミ キョウスケ	48	工学研究科・知能デバイス材料学専攻・教授	材料強度物性・ 超高温材料 博士(工学)	総務委員会委員、プログラム内インター ンシップ・工学教育担当
小池 淳一	コイケ ジュンイチ	54	未来科学技術共同研究センター・教授(工学研 究科・知能デバイス材料学専攻)	電子材料工学 Ph.D	国際連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学・英語教育担当
川崎 亮	カサキ アキラ	59	工学研究科・材料システム工学専攻・教授	粉体加工学 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
成島 尚之	ナリシマ ナカユキ	50	工学研究科・材料システム工学専攻・教授	医用材料学 博士(工学)	総務委員会委員、プログラム内インター ンシップ・工学教育担当
佐藤 裕	サトウ ユウ	40	工学研究科・材料システム工学専攻・准教授	接合工学 博士(工学)	総務委員会委員、プログラム内インター ンシップ・工学教育担当
森本 展行	モリモト ノブユキ	39	工学研究科・材料システム工学専攻・准教授	ポリマー バイオマテリアル 博士(学術)	基礎教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
浅井 圭介	アサイ ケイスケ	50	工学研究科・応用化学専攻・教授	量子物理化学 博士(工学)	国際連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・化学教育担当
滝澤 博胤	タキザワ ヒロツグ	50	工学研究科・応用化学専攻・教授	セラミックス工学 工学博士	研究教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
小野 崇人	オノ タカヒト	45	工学研究科・機械システムデザイン工学専攻・ 教授	ナノ電気機械・微 細加工学 博士(工学)	産学連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・工学教育担当
岩井 伸一郎	イワイ シンイチロウ	48	理学研究科・物理学専攻・教授	光物性、 非線形光学 博士(工学)	基礎教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・物理学教育担当
齋藤 理一郎	サイトウ リイチロウ	55	理学研究科・物理学専攻・教授	固体物理学 理学博士	基礎教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・物理学教育担当
山口 昌弘	ヤマグチ マサヒロ	50	理学研究科・物理学専攻・教授	光電子固体物性 博士(理学)	国際連携委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・物理学教育担当
佐藤 宇史	サトウ ユキヒ	38	理学研究科・物理学専攻・准教授	光電子固体物性 博士(理学)	基礎教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・物理学教育担当
山下 正廣	ヤマシタ マサヒロ	58	理学研究科・化学専攻・教授	ナノ金属錯体化学 理学博士	基礎教育委員会委員、プログラム内イン ターンシップ・化学教育担当

(機関名:東北大学 申請類型:複合領域型(物質) プログラム名称:マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
二間瀬 敏史	フタマセ トシヒ	60	理学研究科・天文学専攻・教授	宇宙論 Ph. D	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ・物理学教育担当
小川 卓克	オガワ タカシ	49	理学研究科・数学専攻・教授	応用解析学・実解析学 理学博士	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ・数学教育担当
都築 暢夫	ツヅキ ノブオ	48	理学研究科・数学専攻・教授	数論幾何学・整数論 博士(数理学)	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ・数学教育担当
塩谷 隆	シヤタカシ	50	理学研究科・数学専攻・教授	幾何学 理学博士	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ・数学教育担当
坂口 茂	サカグチ シゲル	56	情報科学研究科・システム情報科学専攻・教授	偏微分方程式論 理学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ・情報学教育担当
葛西 栄輝	カサイ エイキ	55	環境科学研究科・環境科学専攻・教授	素材工学・環境工学 工学博士	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ・環境科学教育担当
吉岡 敏明	ヨシオカ トシキ	49	環境科学研究科・環境科学専攻・教授	リサイクル工学 博士(工学)	産学連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、環境科学教育担当
川田 達也	カワタ タツヤ	52	環境科学研究科・環境科学専攻・教授	固体イオニクス・エネルギー材料 博士(工学)	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
馬奈木 俊介	マナキ シュンスケ	37	環境科学研究科・環境科学専攻・准教授	環境・エネルギー経済学 Ph. D	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、人文・社会科学教育担当
徳山 英利	トクヤマ ヒデトシ	45	薬学研究科・分子薬科学専攻・教授	有機合成化学 博士(理学)	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、薬学教育担当
直江 清隆	ナオエ キヨタカ	52	文学研究科・文化科学専攻・准教授	哲学・科学技術倫理学 博士(文学)	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、人文・社会科学教育担当
古原 忠	フルハラ タカシ	52	金属材料研究所・教授(工学研究科・金属フロンティア工学専攻)	鉄鋼材料学・材料組織学 Ph. D.	国際連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
高梨 弘毅	タカナシ コウキ	54	金属材料研究所・教授(工学研究科・知能デバイス材料学専攻)	磁性材料学・スピントロニクス 理学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
後藤 孝	ゴトウ タカシ	60	金属材料研究所・教授(工学研究科・材料システム工学専攻)	無機工業材料・無機化学 工学博士	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
松岡 隆志	マツオカ タカシ	59	金属材料研究所・教授(工学研究科・応用物理学専攻)	半導体材料・半導体物性 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
宇田 聡	ウダ サトシ	57	金属材料研究所・教授(理学研究科・化学専攻)	結晶成長学 Ph. D.	国際連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、化学教育担当
野尻 浩之	ノジリ ヒロユキ	51	金属材料研究所・教授(理学研究科・物理学専攻)	磁気物性 理学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理教育担当
G. E. W. Bauer	ハウアー ゲリット	57	金属材料研究所・教授(オランダデルフト工科大学兼任)(理学研究科・物理学専攻)	理論物理学 Dr. rer. nat (ドイツ)	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理学・英語教育担当
三ツ石 方也	ミツイシ マサヤ	52	多元物質科学研究所(工学研究科・応用化学専攻)・教授	高分子機能 博士(工学)	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
蔡 安邦	サイ アンボウ	54	多元物質科学研究所・教授(工学研究科・材料システム工学専攻)	金属物性・触媒材料 工学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
北村 信也	キタムラ シンヤ	58	多元物質科学研究所・教授(工学研究科・金属フロンティア工学専攻)	金属プロセス工学 工学博士	産学連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
福山 博之	フクヤマ ヒロユキ	47	多元物質科学研究所・教授(環境科学研究科・環境科学専攻)	高温材料物理化学 博士(工学)	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
小谷 元子	コタニ モトコ	53	原子分子材料科学高等研究機構・WPI-AIMR・教授(機構長)(理学研究科・数学専攻)	数学・幾何学 理学博士	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、数学教育担当
谷垣 勝己	タニガキ カツミ	58	原子分子材料科学高等研究機構・WPI-AIMR・教授(理学研究科・物理学専攻)	ナノ固体物性物理 工学博士	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理学教育担当
折茂 慎一	オリモ シンイチ	47	原子分子材料科学高等研究機構・WPI-AIMR・教授(環境科学研究科・環境科学専攻)	エネルギー材料 博士(学術)	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、環境科学教育担当
齊藤 英治	サイトウエイジ	41	原子分子材料科学高等研究機構・WPI-AIMR・教授(理学研究科・物理学専攻)	固体物理学 スピントロニクス 博士(工学)	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
井上 邦雄	イノウエ クニオ	47	ニュートリノ科学研究センター・教授(理学研究科・物理学専攻)	ニュートリノ物理 博士(理学)	基礎教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理学教育担当
大野 英男	オノ ヒデオ	58	電気通信研究所・教授(工学研究科・電子工学専攻)	半導体物理・半導体工学・スピントロニクス 工学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
白井 正文	シライ マサフミ	51	電気通信研究所・教授(工学研究科・電子工学専攻)	物性理論・物質設計 工学博士	研究教育委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当
熊井 玲児	クマイ レイジ	46	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所・教授	構造物性 博士(理学)	国際連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理学教育担当

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
山口 浩司	ヤマガチ ヒロシ	51	NTT物性科学基礎研究所・上席特別研究員(量子・ナノデバイス研究統括) (理学研究科・物理学専攻)	半導体ナノ機械構造 博士(工学)	産学連携委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、物理学教育担当
土谷 浩一	ツチヤ コウイチ	52	独立行政法人物質・材料研究機構元素戦略材料センター長、構造材料ユニット長、若手国際研究センター副センター長	金属物性学 Ph. D	総務委員会委員、プログラム内インターンシップ担当、工学教育担当

(機関名:東北大学 申請類型:複合領域型(物質) プログラム名称:マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

日進月歩で新しい機能、プロセス、デバイス、特性が求められる物質・材料分野において、世界的な視野で日本の優位性を維持し、発展させるためには、多角的な視点や手法で物質・材料を理解することで常に俯瞰的にその対象物質が置かれる状況を把握し、迅速かつ適切に社会のニーズに対応できるリーダーが不可欠である。この観点から、限られた軸で物質・材料を評価・解析する傾向が強い現在の大学院教育の弱点を補う新しい大学院プログラムの必要性を強く感じている。本学位プログラムでは、基礎のしっかりした、広い視野でダイナミックに物質・材料分野に対応できる物質リーダーを育成するために、本学が誇る英知を結集する。育成人財目標は、マルチディメンジョン物質デザイン思想を有し、それを実行するだけの広く確かな基礎知識と幅の広い研究経験を有する物質リーダーである。このプログラムで言う「マルチディメンジョン」とは、機能(発光、触媒、伝導、磁力等)、特性(強度、効率、限界値等)、プロセス(原料、製法、デバイス化等)、環境調和性(低炭素、高リサイクル性等)、経済性(コスト、需給バランス等)、安全、評価等に関する**マルチプルな軸・次元で物質を幅広く俯瞰的に捉える**ことを意味する。このような能力を有する人材を養成するために、基礎と応用を担う理学と工学の2つのコア、数学、化学、物理の基礎基盤に対して「物質科学」の横串を入れ、更に薬学、環境科学、経済学、哲学等人文・社会科学を教育要素として配した総合的な教育を行う。

プログラムの特色

広くしっかりした基礎を有する人材は幅広い対応能力を持つことを原則に、本学位プログラムでは、物質・材料科学に関する基礎、特に数学、物理、化学、工学、社会学の基礎を修得させた上で、マルチプルな軸次元で物質を多視角的に捉える能力を養成させる点が一番の特徴である。もう一つの特徴的な取り組みは、**産学連携組織を介した具体的企業とのペアリング**である。プログラム入学後、履修生は指導教員および新設の「マルチディメンジョン物質理工学教育研究センター」委員(プログラム参画教員)および既存組織を活用して新設する産学連携プラットフォームの企業委員との協議によって、5年一貫の博士論文研究テーマおよび連携企業を決定し、「履修生・指導教員・企業委員」の体制で博士論文研究を進めるものである。連携企業は、履修生の長期インターンシップの受け入れ先としても機能する。また、**プログラム内インターンシップ制度**も本提案の大きな特徴でもある。履修生は、所属する研究室とは異なる専攻の研究室において、3ヶ月以上の期間で異なる研究課題と取り組み、その課題についてのオーバービューと成果発表を行うことで、幅広い知識、研究能力、俯瞰力、独創性を磨く。**異なる研究・開発カルチャーへの理解と経験**は、幅広い俯瞰力を有する物質リーダーに不可欠な要素である。なお、プログラム内インターンシップ先研究室の指導教員は、前述の企業とのペアリングチームに参画する。さらに、本学位プログラムに選抜された学生がグローバルに活躍するために、海外留学、国際共同研究を充実する。国際社会で通用する英語コミュニケーション能力を養うため、グローバルコミュニケーションスキルアップ研修を開設して、これを必修化する。

修了生の質を保証する制度として、修士課程2年次進学前後に最初の能力認定試験(Qualifying Examination)を義務付け、博士後期課程1年目に博士論文研究課題、およびプログラム内インターンシップ先研究室での研究課題の**2テーマに関するオーバービュー**を行い、学生が行う研究の質を客観的に保証する。さらに博士論文審査には、従来の専門審査に加えて、外国研究者や企業の審査員も加えた総合能力認定試験を行うことで、幅広い視角と深い知識の両方を有する物質リーダーを育成する。

本学位プログラムは、学位として所属する部局の博士を授与するが、これまでの大学院教育と大きく異なり、ひとつの分野の深い知見と経験を持ちつつ、物質科学に関する俯瞰的・総合的知識を教育するものであるから、**博士課程リーディングプログラム(マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム)を修了していることを付記**し、修了生の幅広い知識、能力を保証する。

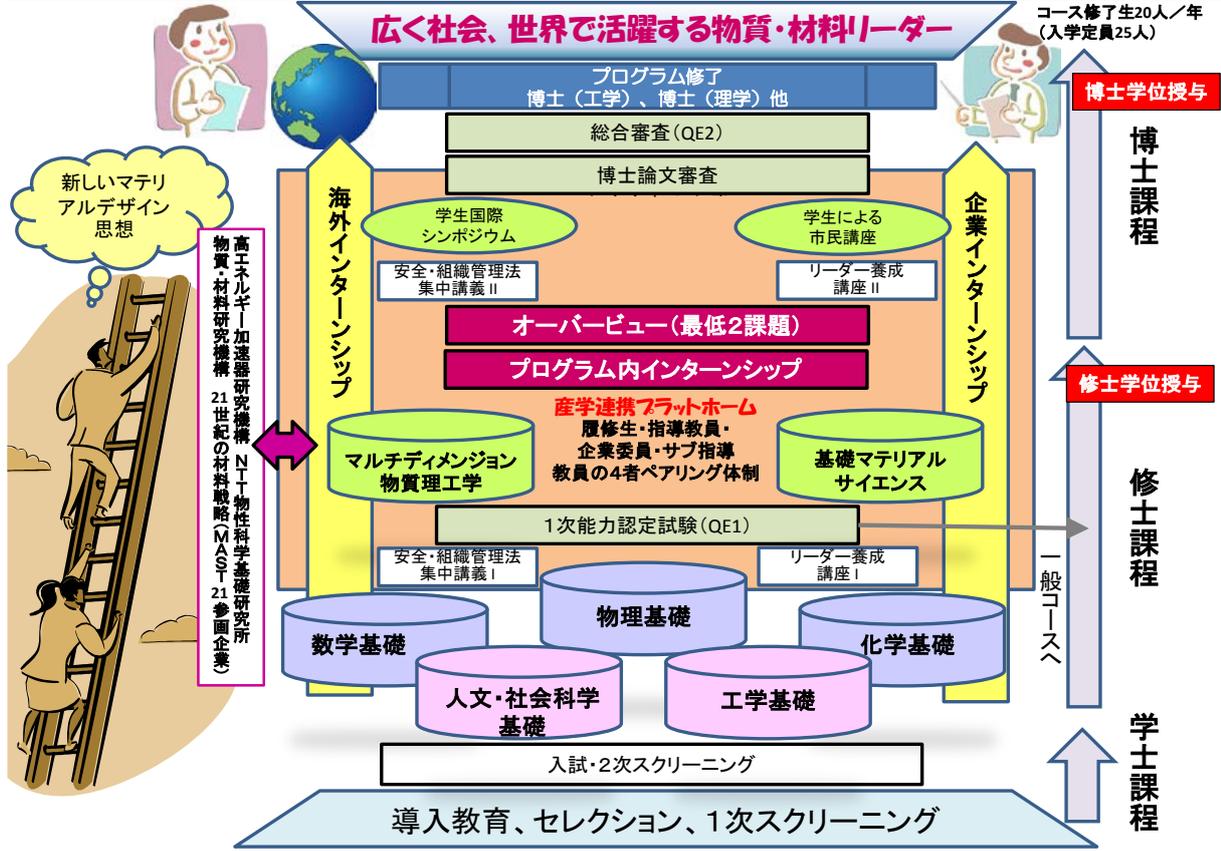
プログラムの優位性

世界最先端を誇る本学物質・材料グループにおいては、様々な英語講義、国際・企業インターンシップのプログラムが用意されており、十分な実績に基づいた基礎教育を行えることが本プログラムの基礎教育における優位性である。本プログラムでは、これらの教育インフラを更に高度化して最大限活用する。また、学部生の導入教育を充実させ、広い角度から将来のリーダー候補生を選抜してプログラムに組み入れると共に、豊富な国際ネットワークを活用して海外からも優秀な人材を積極的に確保する。また、厳選した履修生に対する教育、研究指導では、本学がこれまで培ってきた共同研究体制を発展させた産学連携プラットフォームを設け、これを企業インターンシップ等に最大限活用し、**研究面のみならず、企業組織の運営管理方法の講義等、教育面でも産学官連携を強力に進める**と共に、修了生のキャリアパス確保のために機能させる。なお、全学的には、東北大学リーディングプログラム推進機構を設置し、全学的視点からリーディング学位認定を行うなどの推進体制を構築している。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラムの基本構造



学習教育達成目標	前期課程 (1, 2年次)					後期課程 (3, 4, 5年次)				科目群(11) (修士・博士研修、インテグレーション科目)
	科目群(1)	科目群(2)	科目群(3)	科目群(4)	科目群(5)	科目群(7)	科目群(8)	科目群(9)	科目群(10)	
学習教育達成目標A	●	●								
学習教育達成目標B	●	●								
学習教育達成目標C						●				
学習教育達成目標D					●					
学習教育達成目標E			●							
学習教育達成目標F				●						
学習教育達成目標G						●				
学習教育達成目標H							●			

プログラム履修生に対する学習・教育到達目標

- A) 物質・材料科学に関連する**高度な基礎基盤知識**を修得すること
- B) 物質・材料に関連する**高度な専門能力**を身につけるとともに、他分野に応用できる**幅広く俯瞰的な知識と思考能力**を持つこと
- C) 物質・材料科学の**複数の特定分野**について、最新の科学技術情報および実験・研究手法を修得すること
- D) 物質・材料の**産業プロセスや社会での利用形態**に関する情報を理解し、それらを利用できる能力を修得すること
- E) 適切な**研究課題を自ら開拓し、研究計画を実施**する能力を修得すること
- F) 国際的な舞台上、他者に対して十分な主張、議論、意見交換が出来る**コミュニケーション能力**と、研究成果を広く**情報発信**できる能力を修得すること
- G) **組織の管理、運営方法と倫理**についての基礎知識を修得し、他の組織との連携を主体的に進める能力を修得すること
- H) **上記の修得能力を応用**し、社会要請に対する応えを実践するリーダーシップ能力を修得すること

カリキュラム概要と取得単位数

1, 2年次 (前期課程相当)	科目例	最低単位数	主たる対応学習教育到達目標
科目群(1)	MD物質理工学基礎科目	10	A, B
科目群(2)	専門基礎科目	6	A, B
科目群(3)	MD物質理工学展開科目	8	D, E
科目群(4)	MD物質理工学応用科目	4	F, G
科目群(5)	インターンシップ科目I	2	D, G
科目群(6)	修士研修	8	A-H
前期課程計		38	
3, 4, 5年次 (後期課程相当)	科目例	最低単位数	
科目群(7)	MD物質理工学発展科目	4	C, G
科目群(8)	MD物質理工学実践科目	2	F, H
科目群(9)	インターンシップ科目II	6	C, E, F
科目群(10)	オーバービュー	2	C, E
科目群(11)	博士研修	8	A-H
後期課程計		22	

機 関 名	東北大学
プログラム名称	マルチディメンジョン物質工学リーダー養成プログラム
<p data-bbox="181 315 336 344">〔採択理由〕</p> <p data-bbox="181 367 1433 562">本計画は、材料科学の分野において、従来、ともすれば特定の材料だけをスポット的に見て、「局所的には正解だが全体としては正解とは言えない」研究成果が生み出されてきたという反省から、高度な基礎基盤知識と、俯瞰的な思考能力を兼ね備えた「広く深いリーダー」の養成を目指すものである。申請機関の有する、材料科学、特に金属材料と物理の高い研究と教育の実績にもとづき、総合的に優れた制度が構築されている。</p> <p data-bbox="181 573 1433 808">プログラム内インターンシップ、企業インターンシップ、海外インターンシップなどを含むカリキュラムの体系と、それらの到達目標が明確である。このうち、プログラム内インターンシップは、所属する研究室とは異なる専攻の研究室において、博士論文とは異なるテーマに3ヶ月以上取り組んで成果発表を行うことが義務付けられている。また、産学連携組織を介し、履修生・指導教員・サブ指導教員・企業委員の4者ペアリングを行い、その体制で博士論文研究を行うとしている点にも具体性がある。</p> <p data-bbox="181 819 1433 1014">プログラム担当者等の外国人の割合は多くないが、留学生受入実績は豊富である。基礎講義はすべて英語で行われる予定であり、ネイティブスピーカーを特任准教授・助教として採用するなどして、英語によるコミュニケーション能力の習得を目指している。なお、本プログラムによる支援期間終了後も継続するための組織体制、予算編成が考えられている点も評価できる。</p>	